

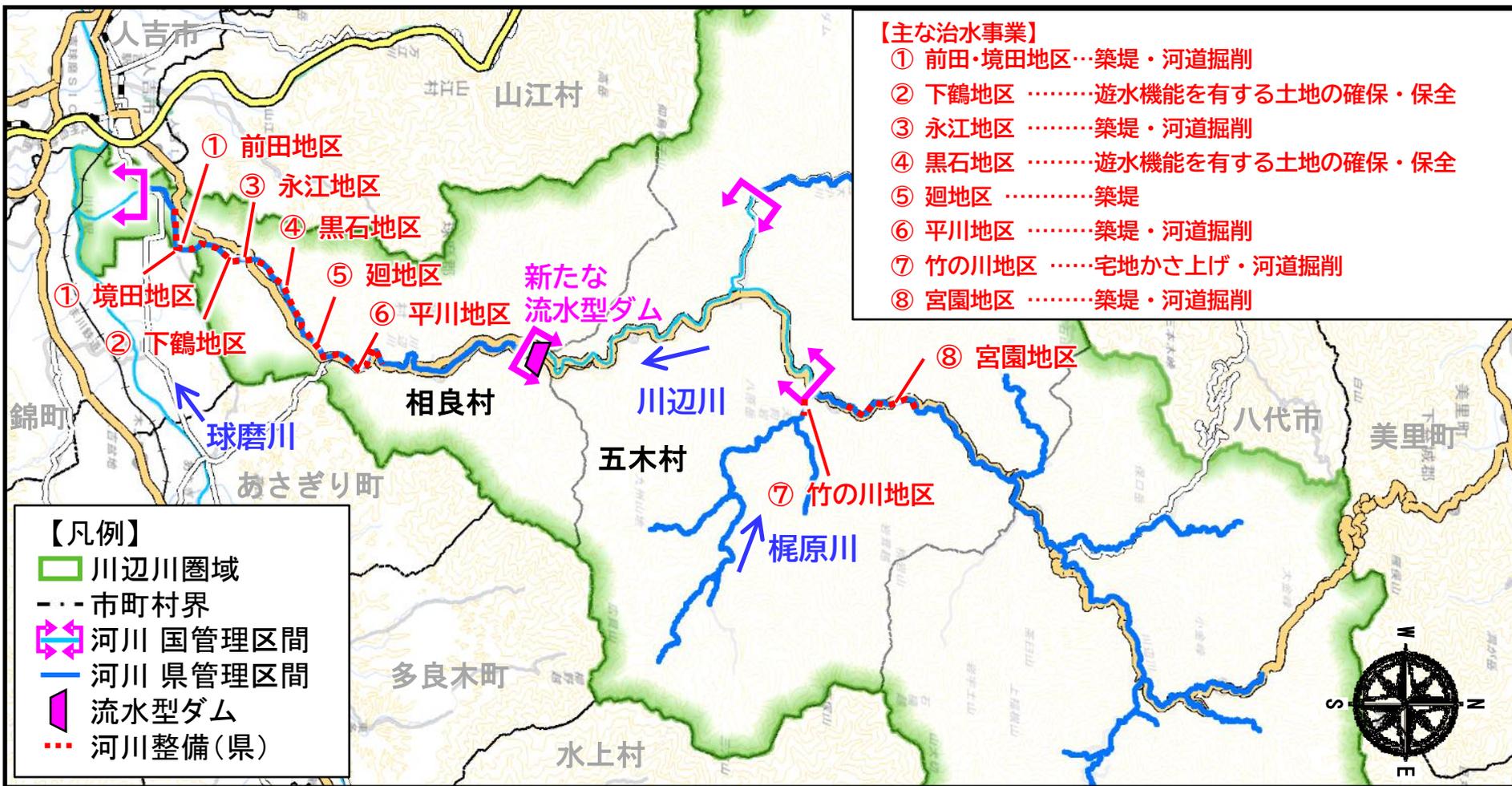
第2回 川辺川の流水型ダムに係る環境保全対策 アドバイザー会議

説明資料 【熊本県が実施している取組】

令和8年2月20日



熊本県 河川課



① 前田・境田地区 (築堤・河道掘削)



② 下鶴地区 (遊水機能を有する土地)



③ 永江地区 (築堤・河道掘削)

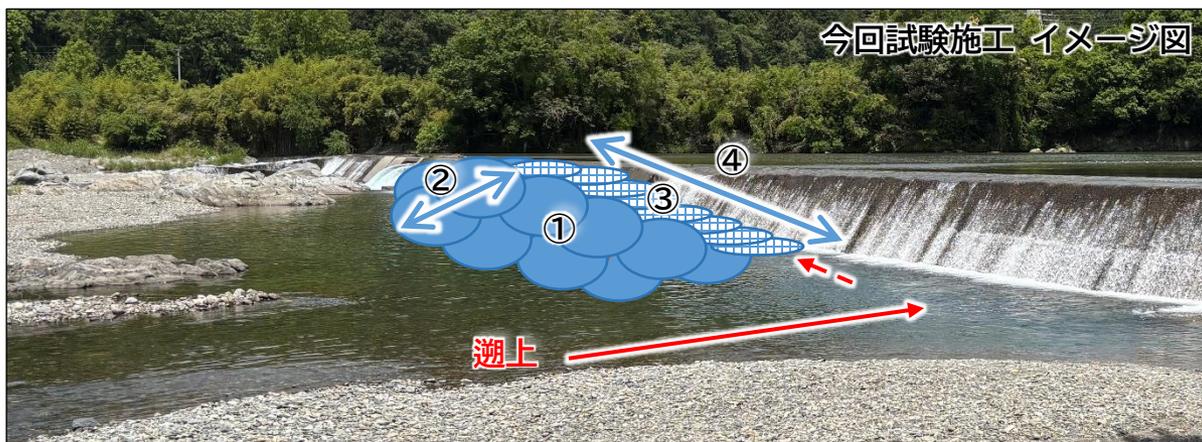


④ 黒石地区 (遊水機能を有する土地)





- アユ等の生物が円滑に遡上できるよう、上下流の連続性確保に向けた仮設魚道の試験施工を実施。(令和7年5月)
- 設置した仮設魚道において、目視でアユの遡上を確認できたものの、モニタリング期間中の出水により流出。
- 前回結果を踏まえ、安定強化を図り、魚道としての機能を向上した新たな仮設魚道の試験施工を計画。



前回からの主な変更点

(安定強化)

- ① 大型で強度のある袋詰め玉石を使用
- ② 側面の勾配を緩くする
- ③ 魚道スロープ部上面の流出を防ぐため、細目の袋詰め玉石を使用

(機能向上)

- ④ スロープ長さを延長し、勾配を緩くする

- 例年3月～6月にかけてアユが遡上。また、その間、球磨川漁協によりアユの掬い上げや放流を実施。
- 本年のアユ遡上時期に向けて、1月に試験施工を開始。
- 現在、水位が低く堰を越流していないため、越流する状況になった後、モニタリングを実施し、アユの遡上状況を踏まえた仮設魚道の改善を検討。



今後の予定

(モニタリング調査(案))

調査方法：目視確認(カメラ撮影)等
 調査時期：アユ遡上時期(3月～6月)

(仮設魚道の改善)

- ・アユ等がより遡上しやすくなるための工夫

検討中のモニタリング方法(案)



水中撮影(堰下流)



定点撮影(堰天端)



水中撮影(堰上流)

- 廻地区では、人と河川とのふれあい空間の保全・創出や良好な環境を保全するため、相良村が進める川辺川魅力創造事業による交流拠点施設の整備と連携し、川辺川本川および小河川の親水護岸等の整備を計画。
- 県は、川辺川本川において階段護岸工事に着手し、本年9月の村の交流拠点施設と合わせた一部供用開始に向けて工事実施中。



上流の階段護岸予定地の状況



小河川の状況



川辺川魅力創造事業および親水護岸の整備イメージ

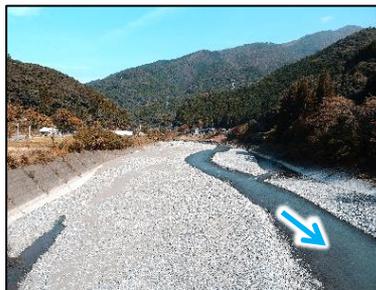


2. 宮園地区の生物環境の取組みについて

- 宮園地区では、近年の上流からの土砂供給状況を踏まえ、毎年、維持掘削工事を実施。
- 河川環境としては河床材料が単一で河床の変化に乏しく、淵やワンド等が少ない。また、河道内の植生も少ない状況。
- 令和6年に生物環境調査を実施し、魚類はタカハヤが優占種であり、球磨川漁協が放流を行っているヤマメ、アユなども確認。地元住民からは、昔と比べて魚が減っており魚が住みやすい川にしてほしい、という要望あり。
- このような状況を少しでも改善するため、治水対策と併せて生物環境の保全・創出に取り組む。



現況の川辺川（宮園地区）



写真① 鶴橋から上流を望む



写真② 宮園橋から下流を望む



写真③ 維持掘削工事

魚類確認種



タカハヤ



ヤマメ



アユ



ウグイ



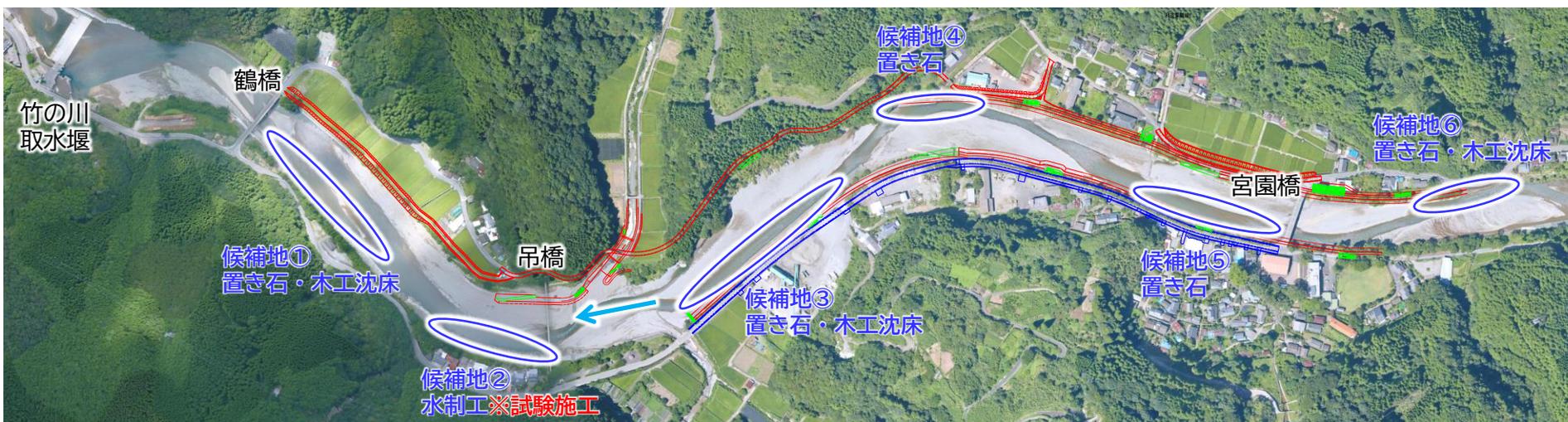
ニッコウイワナ



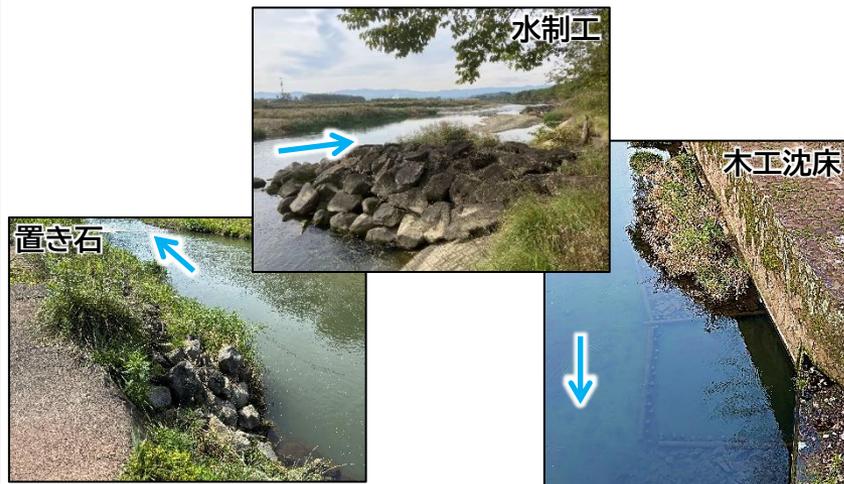
ニホンウナギ

2. 宮園地区の生物環境の取組みについて

- 生物環境の創出に向けて、土砂の堆積状況を踏まえ滯筋が固定化されている箇所を取組みの候補地として選定。
- 河床の変化や流速の低減などの観点から、対策工としては置き石を主体とし、水制工、木工沈床等も含め検討。
- 築堤の影響がない候補地②において、今年度、水制工の試験施工を計画。



生物環境の創出に向けた取組みの例



取組みのイメージ

